

2022 年度 神戸市外国語大学
特別選抜（帰国子女・外国人留学生） 入学試験問題【小論文】

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

教養教育が話題になるとき決まって担ぎ出されるのが、「リベラルアーツ」という概念である。この言葉は通常、漠然と「一般教養」と同じ意味で用いられることが多いが、それだけでは定義としてじゅうぶんではない。

本義に立ち返ってみるならば、これは人間が奴隷ではない存在、すなわち自由人であるために必要とされる学問を意味する言葉で、その淵源は古代ギリシアにまでさかのぼる。古代ローマでは *artes liberales*（アルテス・リベラレス）というラテン語で概念化され、具体的には文法、修辞学、論理学、算術、幾何、天文学、音楽の「自由七科」がその内容とされていた。これが英語に訳されて「リベラルアーツ」となったわけだが、重要なのは「リベラル」という形容詞に「人を自由にする」、すなわち「解放する」という動詞的な意味がこめられているということである。つまりリベラルアーツとは本来、人間を種々の拘束や強制から解放き放って自由にするための知識や技能を意味する概念なのだ。このことはしばしば忘れられがちなので、ここであえて強調しておきたい。

現代人はすでに自由ではないか、だからべつに解放される必要などないではないか、と思われるかもしれない。しかし、普段意識することはなくても、私たちは多かれ少なかれ、さまざまな限界に囲い込まれた不自由な存在である。

（石井洋二郎・藤垣裕子『大人になるためのリベラルアーツ 思考演習 12 題』（東京大学出版会、2016 年、pp.viii－ix.より。ただし、出題にあたって一部表現を改めた個所がある）

設問. 本文で現代の我々も不自由な存在だと指摘されていますが、あなたは現代社会が抱える「不自由」にはどのようなものがあると考えますか。そして、我々がリベラルアーツを学ぶことで、その不自由からどのように「解放」され得る（あるいは、解放されることが望まれる）でしょうか。例を挙げながら 800 字程度で述べなさい。